

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県 南足柄市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	85.14	97.45	1,566	

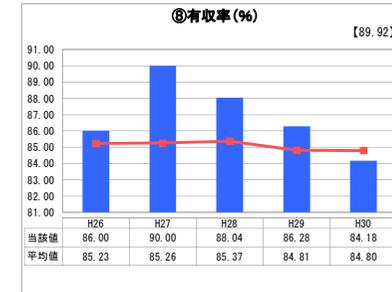
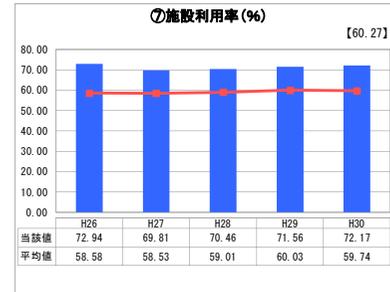
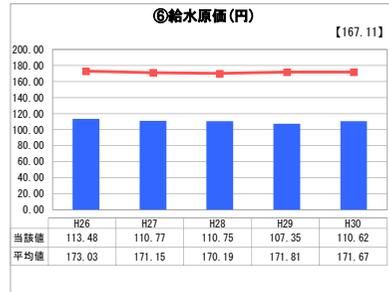
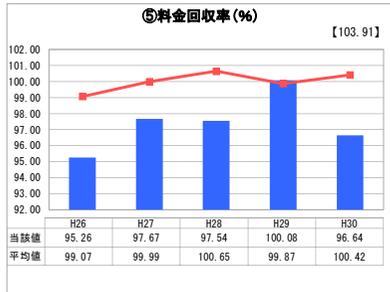
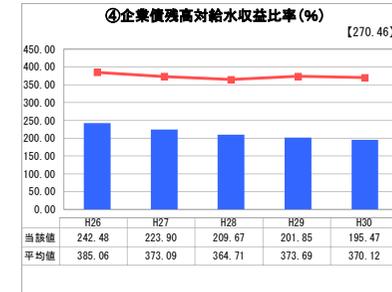
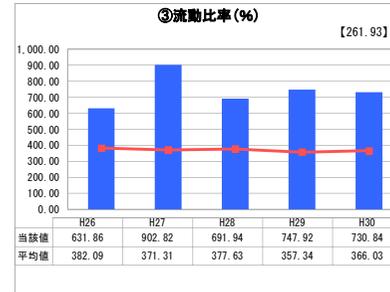
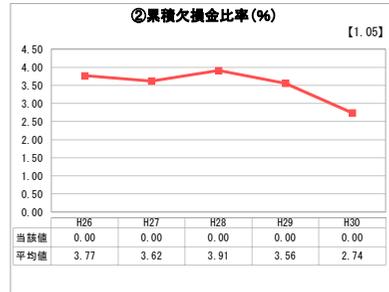
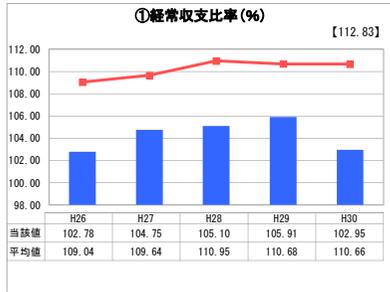
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
42,687	77.12	553.51
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,429	19.05	2,174.75

グラフ凡例

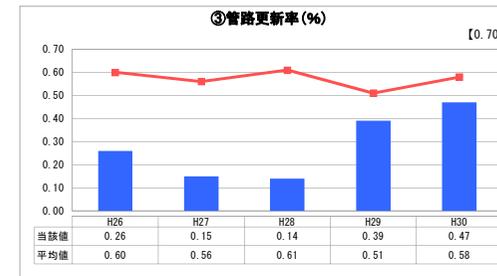
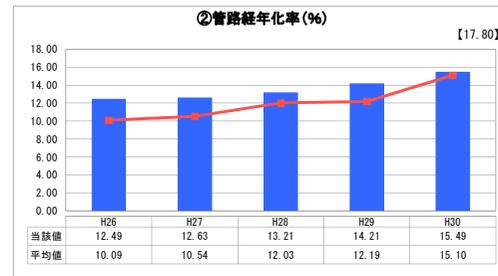
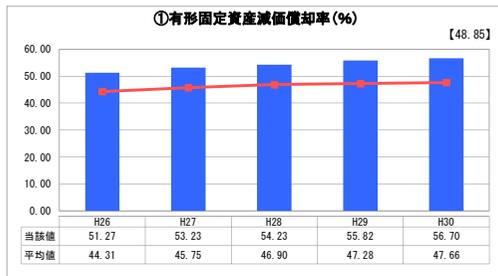
- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は類似団体や全国平均と比較すると低いも、100%以上で推移しており、②累積欠損がない状態は比較的安定した経営状態であると言えます。

③ 流動比率は高く、短期的な債務に対する支払能力は十分にある状態です。また、④企業債残高対給水収益比率も他団体と比べ低い水準にあるため、資金的には余裕がある状態です。

⑤ 料金回収率は、漏水調査の単発的な費用発生により100%を下回りましたが、給水収益の減少傾向は避けられないため、100%前後を推移すると予測されます。

⑥ 給水原価が類似団体の平均より低い状態は以前から変わりはありません。理由としては、本市が表流水と地下水の両方を水源としていることや、立地条件によるものと考えられます。

⑦ 施設利用率は、配水能力に対する配水量の割合ですが、本市は比較的高い比率となっており、水道施設を有効に活用していると言えます。

⑧ 有収率は、管の老朽化に伴い減少傾向をたどっていますが、本年度より漏水対策を定期的に行うことで有収率の維持・向上を図っているところ です。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、本市は償却期間が短い機械類の資産を比較的多く所有しているため、類似団体の平均値よりも高い水準となっています。

②管路経年率は高い水準で推移しています。そのため更新工事を多く実施し、③管路更新率の向上に努めています。

全体総括

近年の全国的な水需要の状況などから、本市においても給水収益の減少傾向は避けられない状況です。そのため、近い将来現行料金では経営が厳しくなることが予測されます。

また、計画的に老朽化した管路の更新を行っていくには留保資金の活用のみならず、確実な財源確保が必要です。そのため、常に財政状況を把握して、料金改定の時期を適切に見極め、準備を進めてまいります。